

3人の女性を演じるたぬきさん。
現在、舞台やテレビドラマ、CMで活躍中。



第1部「愛伽那」のコンサート。左がたぬきさんの息子でギタリスト・作曲家の田上陽一さん、右がヴォーカルの池田依未さん。
ともに鹿児島県出身で現在、東京で活躍中。

女優「たぬき」ひとり芝居 『明日へ』

錦江町自主文化事業

8月17日、町文化センターにおいて、女優たぬきさんによるひとり芝居「明日へ」の公演が行われました。

たぬきさんは、舞台やテレビドラマ、CMなどで活躍されている女優で、2002年から各地で終戦記念公演を行っております。

公演第1部は、たぬきさんの息子で、ひとり芝居の音楽も担当しているギタリスト・作曲家の田上陽一さんと、ヴォーカルの池田依未さんと構成するユニット「愛伽那」のコンサート。第2部は、たぬきさんのひとり芝居「明日へ」が上演されました。内容は、特攻隊をテーマとしたもので、特攻隊員に宿舎を提供された女性や、特攻隊員として出撃して息子を失った母親の役など、たぬきさんが3人の役を演じ、全身全霊をこめた演技に会場内では、吸り泣きする声が聞こえてきました。

ひとり芝居「明日へ」は、当時の関係者にたぬきさんが取材を行って出来上がった作品で、たぬきさんの演技を通じて、戦争の悲惨さや命の大切さ、平和の尊さが伝わってきました。

戦後61年が経ちますが、戦争の犠牲になった人々や、特攻隊員として散っていった若者たちがいたということを忘れてはならないと痛感させられました。

都市部の若者と交流 地域づくり インターン事業

本町では昨年に引き続き、地域づくりインターン事業を実施しました。今年は、京都府立大学大学院1年生川島歩さんと筑波大学大学院1年生鬼塚英城さんの2人を7月20日から8月7日にかけて、インターン生（錦江町体験調査員）として受け入れました。

この事業は、都市部の若者と地域住民との交流をとおし、これまで体験することができなかったこと、当たり前すぎて地域のよさを気づかなかつたことなど、互いに認識してもらおう。また、都市部の若者の視点から、本町の客観的な課題分析及び提



ぶどう園開園式にて。左が川島さん、右が鬼塚さん。

言などを受け、新たな地域づくりの参考とすることなどを目的としています。

2人のインターン生は、サザンビーチバレーフェスタ・自然まるごと体験ツアーなどのイベント、ぶどう・たばこ・茶などの農業体験、青年団の納涼大会への参加などを民家に宿泊しながら体験しました。

8月2日には、体験報告会を開催し、2人が体験を通じて思ったことや錦江町に向けての提案などを発表しました。
提案は次のとおりです。（紙面の都合により一部省略）

- 2つの町の形だけの合併して行こうという意識がそれほど高くないような気がした。
- 住民の方々は、旧町お互いについて、知らないこともたくさんあるのではないだろうか。